

卒業論文

大学における映像シラバス制作とその検証

The production and verification of visualized Course Syllabus in University

提出日 2015年 1月 27日

指導教授

齋藤正武 准教授

中央大学商学部

経営学科 吾妻日花莉 11C3253029D

会計学科 横山 遥 11C2132014G

大学における映像シラバス制作とその検証

The production and the verification of visualized Course Syllabus in University

齋藤正武ゼミ

吾妻日花莉

横山遥

現在、多数の大学で、シラバスを冊子または各大学のホームページ上で公開しているが、いずれも内容は文字によって構成されるものが主である。近年、シラバスの内容改善を求める声も上がっており、より学習に対する学生のモチベーションを向上させるシラバスを作成するための体制について議論がなされている。しかし、履修登録は年度初めや学期初めの忙しい時期に行われるため、学生は履修選択に際してあまりシラバスを読んでいないという現状がある。中には、先輩や友人からの助言に比重を置き、自身の履修講義を決めている者も少なくない。

これらの課題に対し、シラバスの内容を映像化し、短時間の動画にまとめたものを映像シラバスとして学生に視聴させると、視聴者の履修意欲を向上させる効果があることが山本・岩田ら（2013）によって実証されている。

そこで、本研究では、中央大学商学部の58講義について映像シラバスを制作し、その視聴実験および検証を行った。学生が映像シラバスに求める情報の要素を明らかにすることで、履修意欲を喚起するとともに、学生がシラバスから予想する講義の内容や雰囲気と実際の講義の内容や雰囲気とのミスマッチによって起こる学習意欲の低下を防ぐために効果的な映像シラバスの内容と構成について考察した。

実際に制作された映像シラバス視聴後の学生へのアンケート調査の結果、シラバスに求めるものは、特にゼミに関しては授業風景が感じとれる映像や、教員の性格・振る舞いがわかる映像であることが判明した。このことから、紙のシラバスでは伝えることが難しい、授業の生の様子を映像シラバスに盛り込むことによって、学習意欲の向上や学生と教員のミスマッチを防ぐ効果を持つ、価値のあるコンテンツになると言えるだろう。

一方、教員側も映像シラバスについて好意的な意見が多くあった。制作に際して要する手間や時間の問題はあるが、映像シラバスによって担当教員の雰囲気や講義中の様子について学生が具体的なイメージをつかみやすくなるため、映像という形態が当該講義のイメージを把握する手段として適しているとの意見が得られた。

今後の課題として、映像シラバスの制作環境や実用化、運用の問題について、更なる議論が必要であるが、映像シラバスが学生と担当教員の双方にとって価値のあるコンテンツとして運用されることを期待する。